

青年海外協力隊現地巡回指導報告書

JICA LIBRARY



1209176 [5]

技術顧問 (加工・保守操作分野) 坂本 俊治

訪問国 マレーシア

期 間 平成4年9月27日 ~ 10月4日

青国二

JR

92 - 02



1209176[5]

まえがき

本報告書は、青年海外協力隊員の現地協力活動に対する技術面の指導、助言、ならびに現地技術水準の実態調査を行うため、各専門の委員を派遣し調査を行い作成したものです。

その調査報告書を部門別に冊子にしたものですが、隊員の活動状況や問題点及び提案などが整理されており、各派遣国の実情を把握する上でも大変貴重な資料であると考えます。

ついては、隊員候補生を始め多くの関係者に有効に活用されることを期待します。

平成4年11月


青年海外協力隊事務局長

青 木 盛 久

08786

「青年海外協力隊員の現地協力活動に対する技術面の指導、助言、ならびに現地技術水準の実態調査」を行うために、平成4年9月27日から10月4日までの4日間、マレーシア国に出張を命じられて、行って参りました。

とりあえず、次のとおりご報告いたします。

- 1 受入れ中の協力隊員 27職種 64人  西マレーシア 34人
東マレーシア 30人

2 受入れに関する特徴

- (1) この国は、海を隔てて西マレーシアと東マレーシアとに分かれおり、今回見聞することができたのは西マレーシアの一部だけである。

それにしてもマレーシアは、昭和41年（1966年）以来、863人もの多くの協力隊員を受入れていて、JOCVの大得意先の一つである。

- (2) 現在の64人の配属先を見ると、西マレーシアの場合には、教室型の協力隊員、とりわけ日本語教師隊員が多いのが特徴的であり、東マレーシアでは、現場型の協力隊員が目立つように思われる。

これは、西マレーシアでは、工業化が進んで技術技能者の確保が急務となっているとともに、いわゆる「ルック・イースト政策」の一環としての日本語教育が盛んであるのに対して、東マレーシアでは、まだ一次産業が中心的事業であることによるものではないかと考えられる。

3 訪問した協力隊員 (8 人)

2/2	工 作 機 械	三十尾	修 一	技術系教員養成短大（ＴＴＴＣ）
2/2	自 動 車 整 備	滝 沢	正 充	タンピン麻薬患者更生施設
2/3	溶 接	松 井	孝 夫	タンピン麻薬患者更生施設
2/2	無 線 通 信 機	岩 見	和 久	コタバル技術工芸短大
2/2	電 子 機 器	高 田	正 之	アロースター技術工芸短大
1/3	作 業 療 法 士	田 村	郁 恵	ペナン州社会福祉局
3/3	工 作 機 械	三 浦	康 夫	イポー技術工芸短大
1/3	視 聴 覚 教 育	佐 藤	薫	連邦土地開発公団中央研修所

4 集まってもらった協力隊員（5 人）

2/2	日本語教師	内 田	紀 子	教育省SMSAH中高等学校
3/3	日本語教師	奥 村	育 栄	教育省SMSAH中高等学校
4/1	日本語教師	不 破	昌 子	教育省SMSAH中高等学校
3/1	日本語教師	藤 沢	由 佳	教育省STAR中高等学校
3/3	日本語教師	鈴 木	清 美	教育省STAR中高等学校

5 マレーシアでの行動

「青年海外協力隊員現地訪問等の行動記録」のとおりである。

ところで、遙々訪問するのに、僅か2時間前後では形ばかりになりがちで、そこに住んで奮闘してくれている協力隊員たちには、申し訳ない気がしてならない。他面、長居することは、配属（訪問）先の皆さんにご迷惑をおかけする結果を招きかねないし、何とも非常に複雑な心境である。

減多にないほどの機会であるため、できるだけ多くの協力隊員の顔と働き場所を見たいのも事実であるので、昼間のうちにできるだけ多くの働き場所訪問を強行しておいて、協力隊員たちには、夜、改めて集まってもらうようにする等、工夫してみる必要があるように思われる。

6 協力隊員訪問時の状況等

(1) 協力隊員たちは挙って元気で、遅しく生活しているのを見て、安心するとともに頭の下がる思いがした。汗を拭くのに忙しい私に比べて、すっかり風土に馴染んだものとみえて、協力隊員たちは、みな悠然たるものである。誠に余裕が見られる。「若者たちって、素晴らしい」とつくづく感じた次第である。

(2) 最初に三十尾修一隊員（工作機械）を訪ねた。教育省の傘下であり、マレーシアで唯一の技術系教員養成短大である。この短大には、高校を卒業した（日本の高校2年修了に相当する）者が入学するのであるが、修業年限は3年である。従って、この時点では日本の短大卒と同じ年齢となる。卒業後は、職業学校や技術高校の教員になることができる。

その短大で同隊員は、放電加工機による金型製作実習を担当していたが、そのことは隊員報告書で、すでに承知していた。しかし実は、受入希望調査表に基づいて、同隊員に、わざわざNC旋盤とCNC旋盤の補完研修を受けてもら

った経過があり、現地で意見交換を尽くして、受入希望調査表を作ってもらった時点の状況と、実際に隊員が赴任できる約1年後の事情とでは、小さからざる変化があり得るという事例の典型であるように思われる。

それにもかかわらず同隊員は、放電加工機による地味な「金型製作」の仕事に自分の居場所（協力活動分野）を見付け、支援経費で「金型技術」と「放電加工」の参考図書をお願いする一方、英語本「放電加工の基礎」をマレイ語に翻訳中の由なので、現地語の素晴らしいテキストができ上がることを期待している。また、実習課題の見本金型を製作する計画も持っており、できるだけ見事な課題見本を残してきてもらいたいと念じている。

- (3) 滝沢正充隊員（自動車整備）と松井孝夫隊員（溶接）とをタンピン麻薬患者更生施設に訪問した。

この施設は、マレイシア国内の15万人とも30万人ともいわれる麻薬患者を更生させるための施設10カ所のうちのひとつで、それらの中では最大規模のものであり、常時約500人を収容している。ここでは、麻薬患者を2年間収容して団体行動訓練、カウンセリング、職業訓練（印刷等10職種）等を行いながら、社会復帰、正業生活への道を見付けさせようとしている。

この施設の広大な敷地の中には、陸軍の部隊と警察機動隊も一緒に駐屯しており、敷地内の警備にはこれらの部隊と機動隊とが当たっている。施設長のホットマン氏は陸軍少佐である。

ここでの職業訓練は、いわゆるOJTである。仕事を通じて自動車整備や溶接の技能を教え込んでいく仕方である。しかしながら、訓練生（被収容者）たちは、いわば社会から疎外され続けた人間不信の塊となっており、仕事をする気も将来に備える気もないような者が多いのが実情である。

滝沢隊員は、そういう訓練生たち一人ひとりの心の奥深いところに、「人恋しさ」の心情が潜んでいることを確信し、彼らの心を開かせることに心血を注いでいる。その一助にと、新たにカーエヤコンデイシヨナサービス用器材を隊員支援経費で整備してもらい、社会復帰の際の有利さを高めさせることを願って頑張っている。そのために、現職参加でありながら、自らその任期の半年間延長を申し出て、実現した。そして、エヤコンの整備マニュアルをマレイ語で

書き上げる計画も持っている由で、敬服している。

松井隊員も、上記のような実情の中で、「仕事をする気にさせること、ひいては社会復帰への積極的な気持を起こさせること」に、精一杯の努力をしている。そのためにも、彼らの安全を確保することを第一に考えるとともに、花鉢飾りスタンドや丸鉄棒製かまど等、喜んで買ってもらえる製品作りや新しいデザインの考案に腐心している。その一助として支援経費で整備してもらった鉄棒曲げ機を重宝しており、大変喜んでいて、少しでも参考になればと、わが国職業訓練施設の溶接科ではどのような実習製品を作り販売しているかを、展示即売会の写真等で知らせて上げることを約束してきた。

- (4) 早朝にKLを発って西マレーシアの北東端にあるコタバルに飛び、岩見和久隊員（無線通信機）を訪問した。学生約1200人を擁するコタバル技術工芸短大（注）の電気科で、通信工学分野の中軸となっており、現地の先生方4人とともに同科の活性化のために頑張ってくれていた。

同隊員が教育省や配属先と相談して定めた業務実施計画の内容は次のとおりであり、先方の生徒や先生方の受入能力等から、一部省略せざるを得ないものもなくはないが、大筋ではウマク進めてくれているようである。

①生徒への実習指導及び先生方への実習指導方法の指導 ②生徒及び先生方への製作実習に関する指導 ③使用中の実習手順書の改訂 ④使用されていない実習設備の活用とそのための実習手順書の作成 ⑤故障実習設備の修理とこれに関する先生方の指導 ⑥通信理論（特にデジタル通信分野）についての先生方への講義

同隊員はNTTからの現職参加であるが、NTTの社員研修が行き届いているせいか、隊員自身が勉強好きのためか、以上のような協力活動ができる隊員は、誠に見事であり、感服するばかりである。

（注）「技術工芸短大」は、マレーシア事務所が行った「ポリテクニク」の邦訳である。隊員報告書の中で「技術工芸学校」と書いている者もあり、殊に文中では「学校」としている例が少なくない。なお、「学生」よりも「生徒」と書いている例が多く、すべての隊員は、教師陣を「講師」と呼んでいる。

(5) コタバルで岩見隊員の見事な活躍ぶりを現認するや否や、踵を返して西マレーシアの北西端に位置するアロースターに向かった。このケダ州の州都アロースターの北方約20 Km、タイ国境まで30 Km足らずのところにある町ジトラに高田隊員（電子機器）を訪れた。やはり技術工芸短大の一つで、4科の学生約1300人、教職員約150人という規模である。同隊員はその中の電気科に属して、マイクロプロセッサや機器修理の分野で協力活動を行っていた。

赴任当初は、受入希望調査表にあったような授業担当への期待は全然なく、その他の仕事への指図もなかった。そこで、学生の卒業制作指導や同僚教師が行う研究活動に協力しながら、周囲との間に信頼関係を構築するとともに、業務計画案作成のための情報収集に努めていた。

6ヵ月が過ぎた頃から、電気科長との打合せで、マイクロプロセッサ関係を中心として、週に20時間程度の実験実習助手の役割を担うこととなった。機器の修理についても、オシロスコープ等マイコン実験室内のものだけでなく、その他の実験室のものや機械科の工作機械にいたるまで多種多様なものの依頼があり、しかも増える一方であることに悲鳴を上げている。そのほか日本語教室の開設も懇望され、短大が入手した日本語教育用ビデオの翻訳中である。その間に、同僚教師の発想を生かし、彼を激励しながら、マイクロプロセッサで走行の速度や方向を制御できる搬送車を製作した。これは、床面に設けたマーキングをセンサで検出してトレースする簡単なものであるが、将来は障害物センサを備えた本格的な自由走行車に改良していく考えの由であった。

いわばその実力が認められて、短大から事務所あてに、この12月2日に満了する任期の1年延長を要請された同隊員は、勿論異存がないばかりでなく、①「同短大教員を対象としたマイクロプロセッサ講習会の開催」（毎週1～2回、3ヵ月程度）を計画しており、現在はそのテキストを作成中である。また②電子回路設計者のためのマニュアル作り「応用回路集の作成」も計画しており、アナログ、デジタル、マイコン、計測、電力、高周波等、あらゆる分野の応用回路例について、その動作原理と併せて回路図、部品表を纏めたものを作る考えでいる。③エレクトロメカニカルコースに関する「指導要領の改善案」を作成して、教育省に提出することも計画している。

以上のように、誠に情熱に燃えた、いわば模範的な協力隊員であると称賛せざるを得ないご仁である。

- (6) 田村郁恵隊員（作業療法士）をペナン州社会福祉局に訪ねた。エレベータを降りて田村隊員の居場所を尋ねた相手が、たまたま同隊員の直属上司、同局障害者リハビリ部長リー女史であった。明るくて気さくな同部長は、早速招じ入れ、同隊員を呼んで下さった。

わが国における社会福祉行政のことも作業療法士の仕事もよく分かっていない者が、マレイシアで協力隊活動を行う田村隊員の様子を十分に述べることは非常な難事であるが、伺ったことの大筋だけをお伝えすることにしたい。

ペナン州社会福祉局障害者リハビリ部門には、田村隊員の配属先である本局と、州内を5地区に分けて各々に設けた5支局とがあり、さらに収容施設や更生寮等の付属施設が設けられている。障害児（者）登録の制度があつて、1ヵ月に150M\$の手当が父兄（家庭）に支給されている。そのほか、5支局各々にボランティアたちのグループが所属していて、主として幼児と学齢児が閉じ籠もっている家庭を巡回訪問し、療育指導等を行う仕組みになっている。これが「地域基盤のリハビリテーション（コミュニティベース・リハビリテーション＝CBR）」の基本型であり、その拡充が当面の課題となっている。なお、これらのボランティアたちには、去る4月から1時間7.5M\$の手当が連邦予算から支給されることとなつて、CBRの拡充に弾みがついた由であつた。

そこで、田村隊員の協力隊活動であるが、ボランティアと一緒に家庭訪問を行つて、いわばOJTでボランティアを実地に技術指導したり、ボランティアの講習会を開いて自ら指導を担当したり、これらに関連する本局事務に従事したりしているところが、その主要なもののようなのである。

ともあれ、リー部長の信頼も篤く、隊員の任期を1年延長して、いわばなりふり構わず頑張っている姿には、頭の下がる思いがした。

- (7) この日は、陸路で2隊員を訪ねながら、KLに戻らなければならないため、いくらか早い目にペナンを出発した。

まず三浦康夫隊員（工作機械）をイポー技術工芸短大に訪ねた。この短大は全国に六つある技術工芸短大中最も早く設置されたもので、それだけに、土木

工学、機械工学、電気工学、船舶工学、商業の5学部、17学科があり、学生総数約3500人、講師（教員）数約300人と、規模も最大である。三浦隊員はこの機械工学部加工技術科に配属されていて、期待される役割は、主としてCNC工作機械（タキザワ製TC-2型CNC旋盤1台と他国製CNCフライス盤1台）につき、講師たちに対してその理論と実技を指導することと、講師たちによるこれらの機械の教育上の活用策を検討し助言することである。

赴任後ほぼ6ヵ月、同隊員はすでにこれらの機械の教育上の活用策（教育事項と所要時間、学生のローテーションの仕方等の改善案）を計画し、上司に提案している。鷹揚そうな同隊員の水際だった手早さを感じ入ったものである。

今後は、講師たちや上司と十分意見交換しながら、講師たちへのCNC機械の理論と実技についての指導が円滑に進むように、工夫願いたいものである。

4年2次隊の現候補生が赴任する予定の電子計算機関係の実習室等も見学し終わったところで正午を少し回ったため、早々に辞去して三浦隊員とともに、すぐ近くにあるSTAR中高等学校の日本語教師藤沢由佳隊員と鈴木清美隊員を招いて、近況を聞いたり事務所との連絡事項を交換したりしながら、昼食した。両日本語教師隊員とも大変元気で、逞しく頑張っている模様であった。

- (8) 佐藤 薫隊員（視聴覚教育）を連邦土地開発公団中央研究研修所（略して、FELDA INPUTという）に訪問した。この連邦土地開発公団（FELDA）は、いわば土地開発を行って油椰子等の農業への入植促進と定着を図る公的な団体であり、中央研究研修所（INPUT）は、FELDAの職員と入植者、そして同様に開発を目的とする団体に対して広く研究と研修の場を提供するところである。約37畝の広大な敷地には、事務棟、研究研修棟、宿泊棟を中心に職員住宅、公園、スポーツ施設、レストラン、マーケット、スラウ（イスラム教の祈禱舎）等が配置されている。

そのINPUTの中に、従来「研修技術（視聴覚教材）開発課」があって、視聴覚教材一般（印刷物、OHP、写真、スライド、ビデオ等）の開発に当たってきたが、このところのビデオの普及、一般化に伴い、ビデオプロダクション業務を2年前に独立させて、STUDIO VIDEO INPUT（略してSVIという）を設けた。ここが佐藤隊員の仕事場である。

事務所の一角を拡張して素晴らしいスタジオを作り、そこに真新しいビデオ編集システム（隊員支援経費による）が整備されていた。同隊員は、誇らしげに同システムを披露しながら、1年延長した任期もすでに半年足らずとなってしまう中で、「スタッフ全員をカウンターパートとして技術協力を行う」ことを力説し、自らの持っているすべての能力を、SVIの全スタッフに移転し終えようと、懸命に頑張ってくれていた。

7 感想と対策案

(1) 協力隊員の特性等について

配属先を訪問して施設長等の責任者にご挨拶し、隊員の仕事場に案内してもらう頃になると、配属先における隊員の位置のようなものが、何となく感じられてくるものである。しっかりと根を張っていて、いわば「不動の位置を確保している」ことが感じられる場合と、必ずしもそうでないことに気付く場合とがある。

「協力隊員たちは拳って元気で、逞しく生活している」と先述したことには間違いがないのであるけれども、配属先での輝きに差があって、「もう少し頑張ってね」と後押ししたくなるケースに出会うことがあるのである。話をしてみても、仕事（専門技術）についてはよく知っているし、腕前もそこそこであり、一所懸命にやっているのに、輝いて見えないのである。しかも人柄は素直であり、真面目で、こつこつと努力する、申し分のない模範的な青年であると思われるのに、である。

どうしてかと頭を抱えているうちに、ふと気が付いたのは、隊員の配属先は海外だということである。現地の言葉に馴れること一つをとってみても、几帳面で実直で、先ず構文や文法をよく考えてからでないと口を開かないというような、き真面目さ、あるいは慎重さでは、なかなか上達しにくいと思う。そして、言葉が不自由だと、どうしても引っ込み思案になりがちだし、従って周囲の皆さんともついつい疎遠になるという悪循環に陥ってしまい、輝きが出にくいということになるのではないかと思われる。そう思いながら、しっかりと根を張って輝いている隊員を、頭の中で分析してみると、彼は確かに、非常に明

るくて、積極性に富んでおり、行動力が旺盛なご仁である。いわば、走りながら考えるタイプである。しかし彼の技術レベルは、どうみても、例の慎重居士を超えているとは考えられないのである。やはり彼が輝いているのは、その技術が優れていることによるというよりも、むしろキャラクターによるものと考えざるを得ないのである。あとでOBに確かめたところでも、協力隊員に必要な特性は、何をおいても行動力と積極さだとのことである。

さて、そうだとすると、私ども技術専門委員は、受入希望調査表を睨みながら技術面接を行い、隊員候補者の確保に努めているところであるが、もっと個人面接のほうで頑張ってくださいことにして、受入希望数と派遣実績との間の開きを縮めるためにも、多少手綱を緩めるとよいのかなと、秘かに考え始めているところである。

(2) 協力隊活動の分野（内容）に関する受入希望の高度化について

マレーシアは、いわば工業立国を目指して全力疾走中である。この20数年間における輸出品目構成の推移には注目すべきものがある。従来、約80%を占めていたゴム、錫、木材等の一次産業製品が、今では50%を下回る有様で、電気・電子関係を中心とする工業製品が顕著な伸びを示している。因みにマレーシアは、エアコン機の生産額も輸出額も世界一の由であるし、自動車の国産も行っているのである。このような工業化政策を一層推進していくためには技術技能者の養成確保が緊要であって、特に、加工部門と保守操作部門における高度な技術を持った隊員を待望している。具体的には、CNC工作機械、メカトロニクス、パワーエレクトロニクス、デジタル通信等で、技術工芸短大（ポリテクニク）を中心に、JOCVに対する期待は大きい。

一般に、受入希望（要請）が高度化すればするほど隊員候補者の確保が困難となることが予想される。その緩和策として考えられることは、隊員を自前で育成するか、生産現場等の第一線から人材を求めるかのどちらかである。しかし、ますます多様化する隊員を自前で育成することは、なかなかの難事業である。従って、生産現場等の第一線から人材を求める、いわば在籍参加を求めるほかに妙案はないものと思われる。休職派遣元の開拓を含めて、組織募集の拡大促進を懸命に図ることが緊要であると考ええるものである。

青年海外協力隊員現地訪問等の行動記録

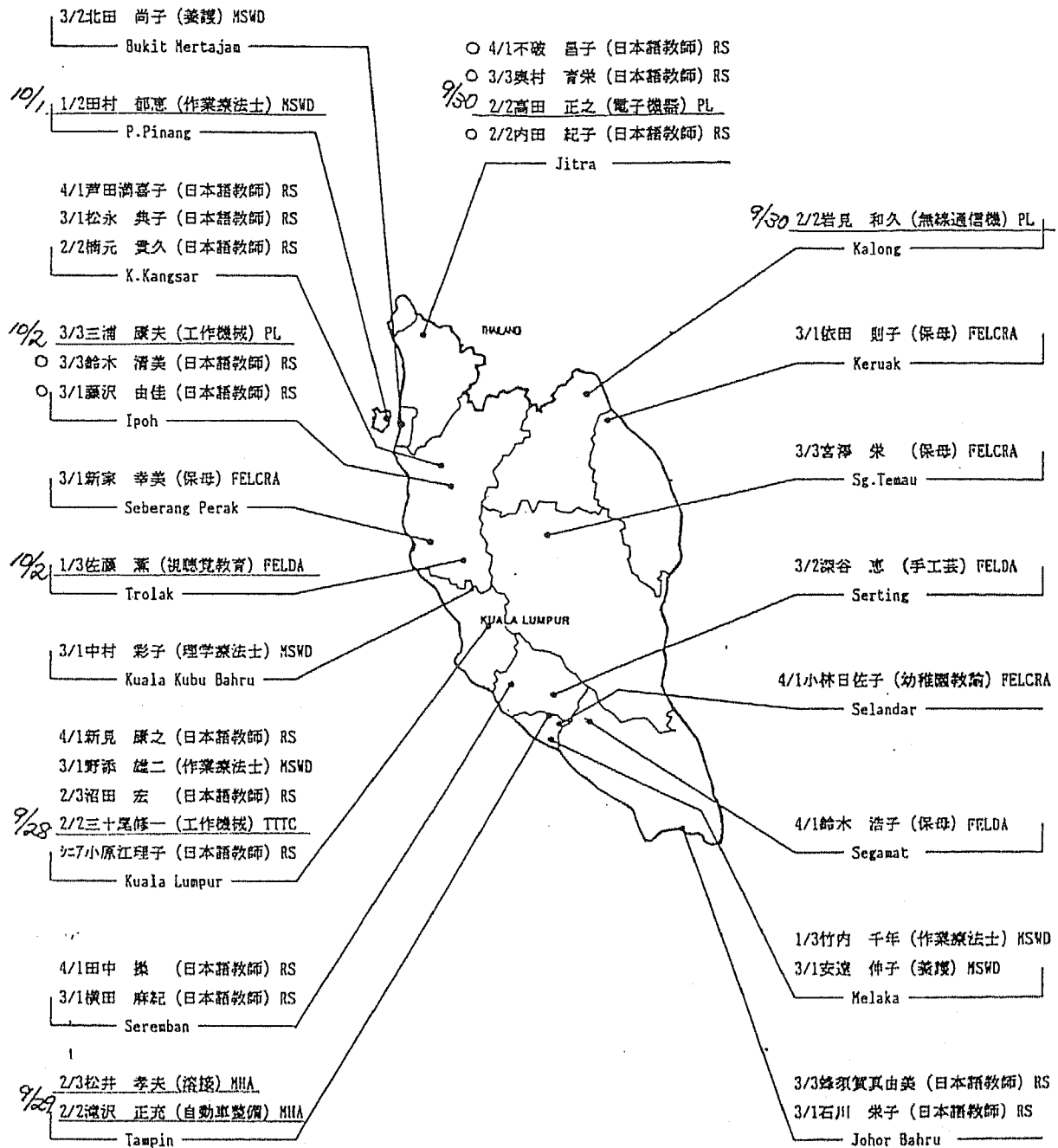
月日	時刻	訪 問 先 等
9/27 (日)	18:40 19:40 20:00	KL 空港着、事務所の草野次長と勝俣調整員が迎えて下さる。 借上げ自動車でエクアトリアルホテルに入る。 草野次長と勝俣調整員から、マレーシアにおける隊員の受入状況や関係隊員訪問の手順等についてのご説明を受ける。
9/28 (月)	9:00 9:30 11:30 14:30 16:20 18:30	借上げ自動車でホテル発。勝俣調整員にご案内いただく。 JICA 専門家笠原昌平氏も同行下さる。 三十尾修一隊員(2/2 機械)を技術系教員養成短大(TTTC)に訪問 カジャン中等職業学校(4年機械科)見学 労働省国家職業訓練委員会(JICA 専門家笠原昌平氏の職場)を訪問し、「マレーシアの技能者養成」を伺う。 JICA マレーシア事務所を訪問し、小泉所長ほかの皆さんにご挨拶するとともに、草野次長から追加説明を承る。 ホテルに帰着
9/29 (火)	9:00 11:00 13:20 20:00	借上げ自動車でホテル発。草野次長にご案内いただく。 滝沢正充隊員(2/2 自動車整備)と松井孝夫隊員(2/3 縫)とをタンピン麻薬患者更生施設に訪問 マラッカ市で同隊員たちと、協力活動や現地生活の状況等についての近況報告や、事務所側からの連絡説明の会議を開催 ホテルに帰着(マレーシア全土が停電。道路の信号も点灯せず、極度に交通が渋滞した。ホテルでも蠟燭の明かりで夕食する。)
9/30 (水)	6:15 8:00 8:45 9:30 12:55	借上げ自動車でホテル発。勝俣調整員にご案内いただく。 KL 空港発(MH1386便) コタバル空港着 岩見和久隊員(2/2 無線通機)をコタバル技術工芸短大に訪問 コタバル空港発(MH1389便)

	13:30	アロースター空港着
	14:30	高田正之隊員(2/2 電機器)を、ジットラ市内のアロースター技術工芸短大に訪問
	18:00	アレスターグランドコンチネンタルホテルに入る。
	19:30	高田隊員や3日本語教師隊員たちとともに、外で夕食した後同ホテル内で、協力活動や現地生活の状況等についての近況報告や、事務所側からの連絡説明の会議を開催
10/1 (木)	8:30	借上げ自動車ホテル発。依然、勝俣調整員にご案内いただく。
	10:50	田村郁恵隊員(1/2 作機社)を、ペナン島にあるペナン州福祉局障害者リハビリ部に訪問
	12:00	E&Oホテルにチェックイン
	12:30	同隊員と隊員の上司であるリー同部長をジョージタウン市内竹葉亭にお招きして、行政の話を伺うとともに、同州同局に配属されている北田隊員への配意方や、今後に向けての隊員受入れの積極化をお願いする等の会議を開催
10/2 (金)	7:00	借上げ自動車ホテル発。依然、勝俣調整員にご案内いただく。
	10:30	三浦康夫隊員(3/3 工機)をイポー技術工芸短大に訪問
	12:30	KLから来てくれた借上げ自動車で、同短大を辞去
	12:40	同隊員及びイポー市内の2日本語教師隊員たちと、昼食かたがた懇談し、激励した。
	15:30	佐藤 薫隊員(1/3 観音教育)をFELDA INPUTに訪問
	18:30	KLのエクアトリアルホテル着
	19:00	小泉所長と3次長の皆さんに簡単なお報告と、ご挨拶をする。
10/3 (土)	9:15	借上げ自動車ホテル発。依然、勝俣調整員にご案内いただく。
	10:00	文部省技術職業教育局企画課長表敬訪問 午後、資料整理
10/4 (日)	12:30	KL空港発(MH78便) 草野次長と勝俣調整員が見送って下さる。 「隊員任地視察の旅」の6家族の皆さんと同便機で帰国する。

JOCV MALAYSIA
隊員配置図 (西マレーシア)

1992年9月 1日現在

64 Volunteers (Male 28, Female 36)
34 West Malaysia (Male 12, Female 22)
30 East Malaysia (Male 16, Female 14)



JOCV MALAYSIA

隊員配置図 (東マレーシア)

1992年9月 1日現在

64 Volunteers (Male 28, Female 36)
34 West Malaysia (Male 12, Female 22)
30 East Malaysia (Male 16, Female 14)

4/1中居美栄 (シフトメンテ) SMSA
3/2田中宏幸 (養殖) SFD
3/2小出久美 (保健婦) SPPA
2/2相原 昇 (造園) STCPD
2/3橋本 誠 (養護) SSWD
2/3川俣恵詞 (養護) SSWD
2/3小林治美 (シフトメンテ) SRFB

2/3坂沼光生 (養殖) SFD
3/3植田健嗣 (自動車整備) SRFB

3/2國守靖子 (養護) SSWD
3/1蔵治光一郎 (森林保護) FDS
2/1田中里美 (森林経営) FDS
1/3赤松里香 (獣医師) SWLD

4/1菊田 融 (昆虫学) SNP
Kinabalu

1/3杉本啓子 (昆虫学) SNP
Poring

2/2中西加津 (家政) SRFB
Tenom

3/1宮澤美貴子 (養護) SSWD
Tawau

1/1辻 雅彦 (野菜) FELDA
Sahabat

4/1秋山 公重 (司書) MMC
2/2山中智砂子 (家政) SWD
Miri

4/1鶴見 隆 (造園) BDA
Bintulu

3/2根本 実 (野菜) IADP
Samarahan

2/1池田清豊 (野菜) FELCRA
Belimbing

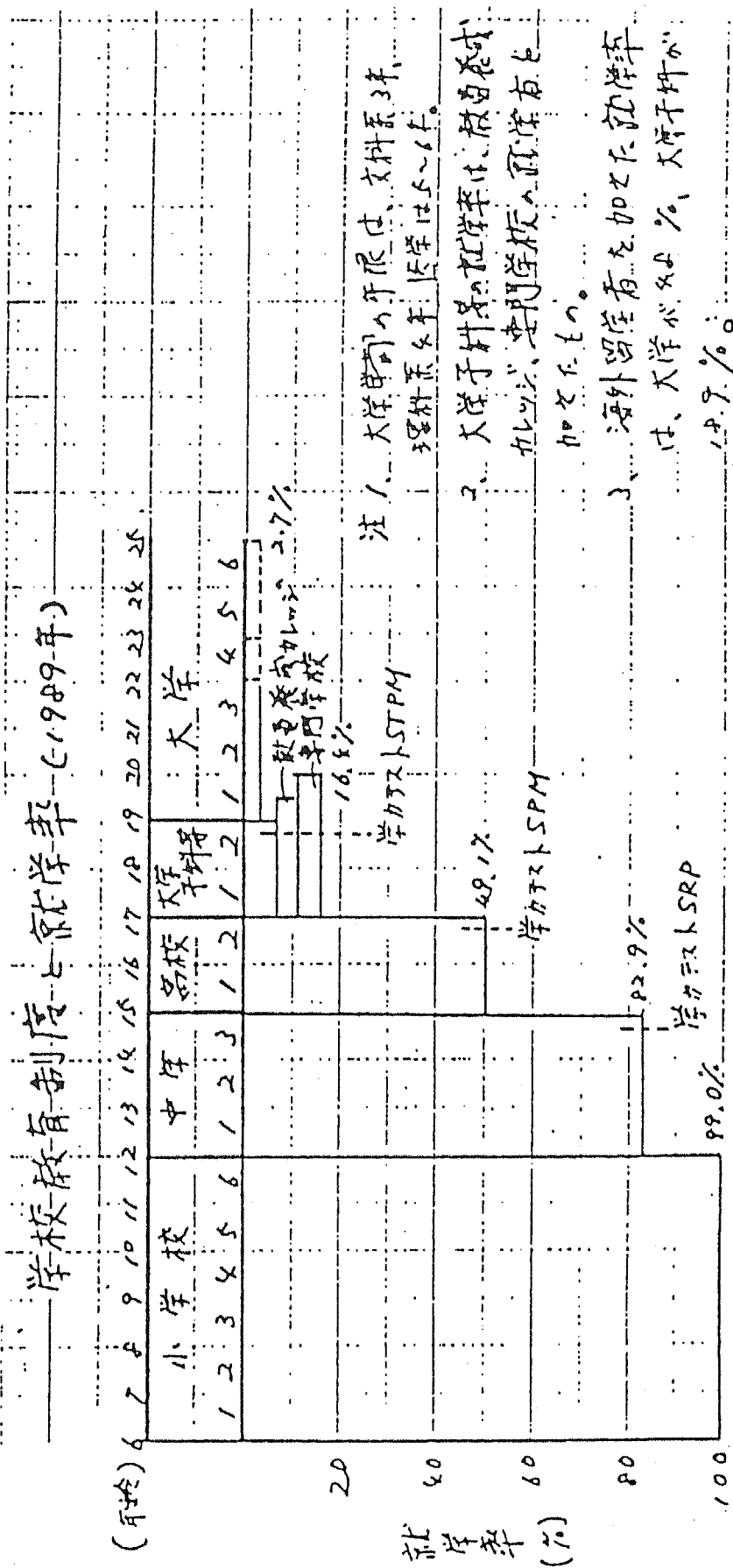
4/1山本富士江 (作業療法士) SWD
3/2入江博道 (木工) STIDC
3/1久野研二 (理学療法士) SWD
2/3菊池聡彦 (家畜飼育) SEDC
2/2宮崎詞史 (村落開発普及員) SLDM
2/2佐藤純子 (手工芸) SEDC
2/1藤沢陽子 (手工芸) SEDC
Kuching

Recipient Agencies

FELDA : Federal Land Development Authority
FELCRA : Federal Land Consolidation & Rehabilitation Authority
MHA : Ministry of Home Affairs
MSWD : Malaysia Social Welfare Department
TTTC : Technical Teacher's Training College
PL : Polytechnic
RS : Residential School
FDS : Forest Department, Sabah
SFD : Sabah Fisheries Department
SPPA : Sabah Family Planning Association
SMSA : Sabah Museum & State Archives

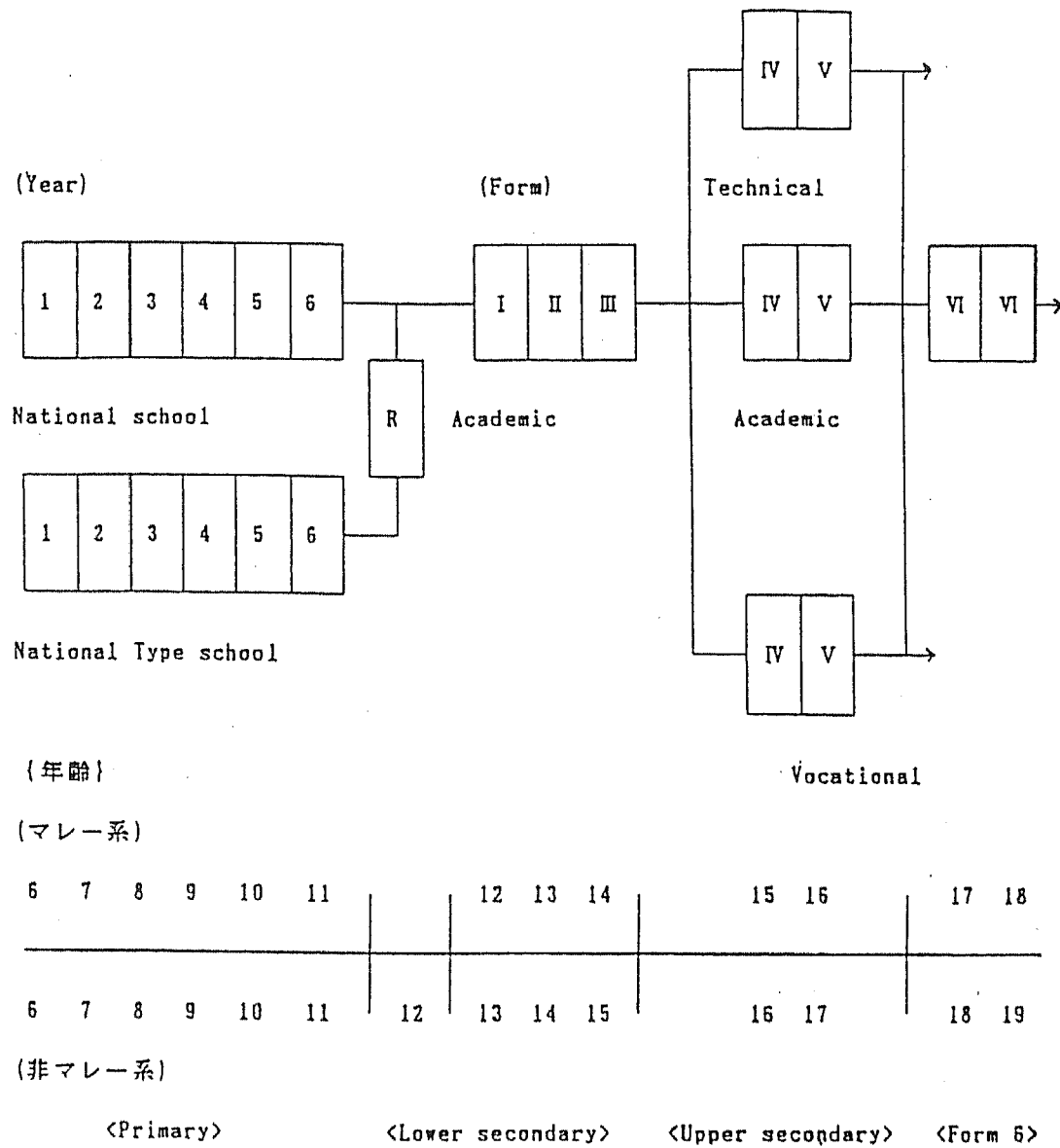
SNP : Sabah National Parks
SRFB : Sabah Rubber Fund Board
SSWD : Sabah Social Welfare Department
STCPD : Sabah Town & Country Planning Department
SWLD : Sabah Wildlife Department
BDA : Bintulu Development Authority
IADP : Integrated Agricultural Development Project
MMC : Miri Municipal Council
SEDC : Sarawak Economic Development Corporation
SLDM : Sarawak Land Development Ministry
STIDC : Sarawak Timber Industry Development Corporation
SWD : Sarawak Welfare Division

表5 学校教育制度と就学率



「エリシエ教育調査」(1989)に基づいて作成

マレーシアの教育体系図 (1989年)



注: R=Remove class

(The Ministry of Education "EDUCATION IN MALAYSIA". 1989より)

THE EDUCATION SYSTEM

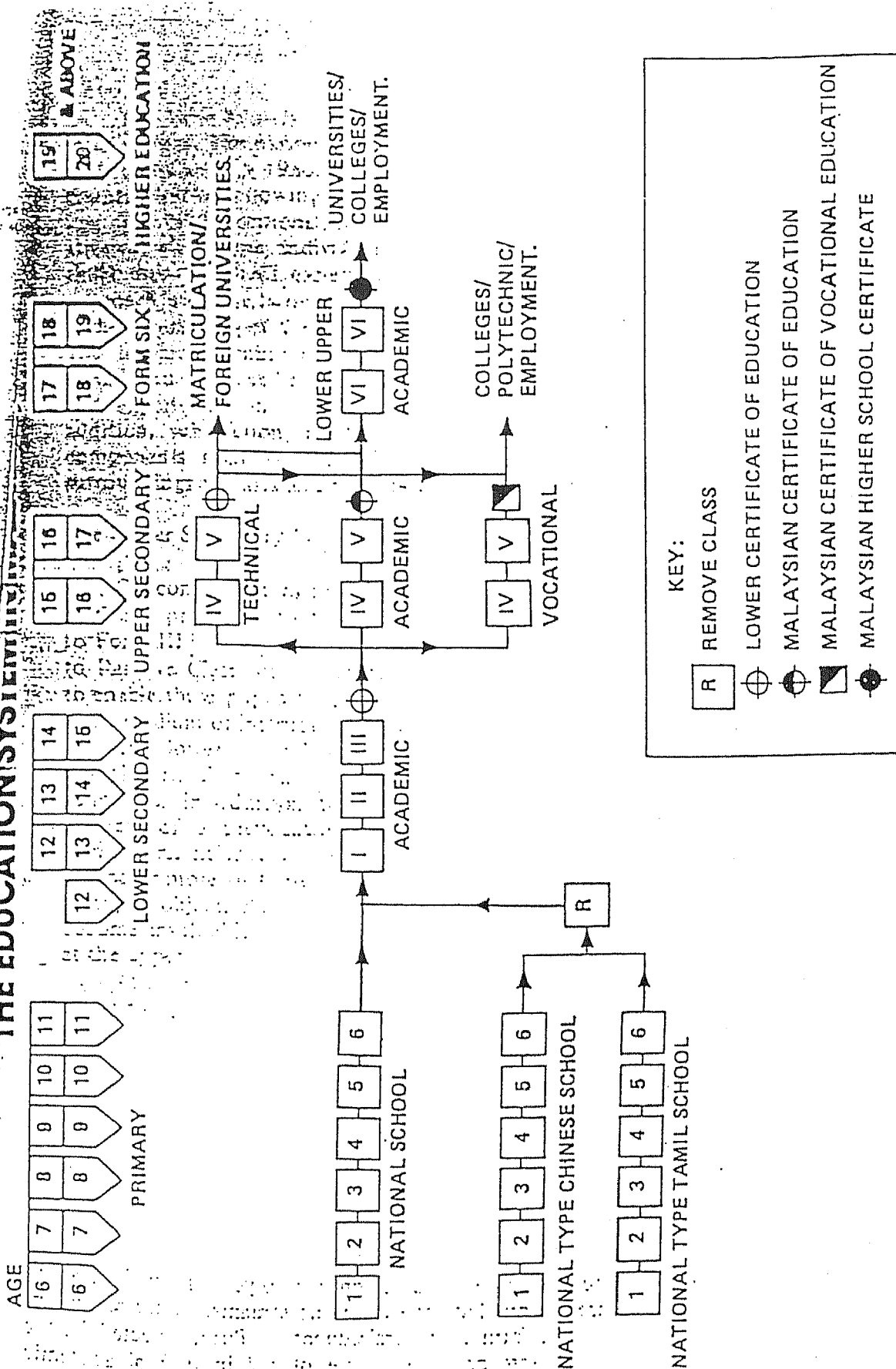
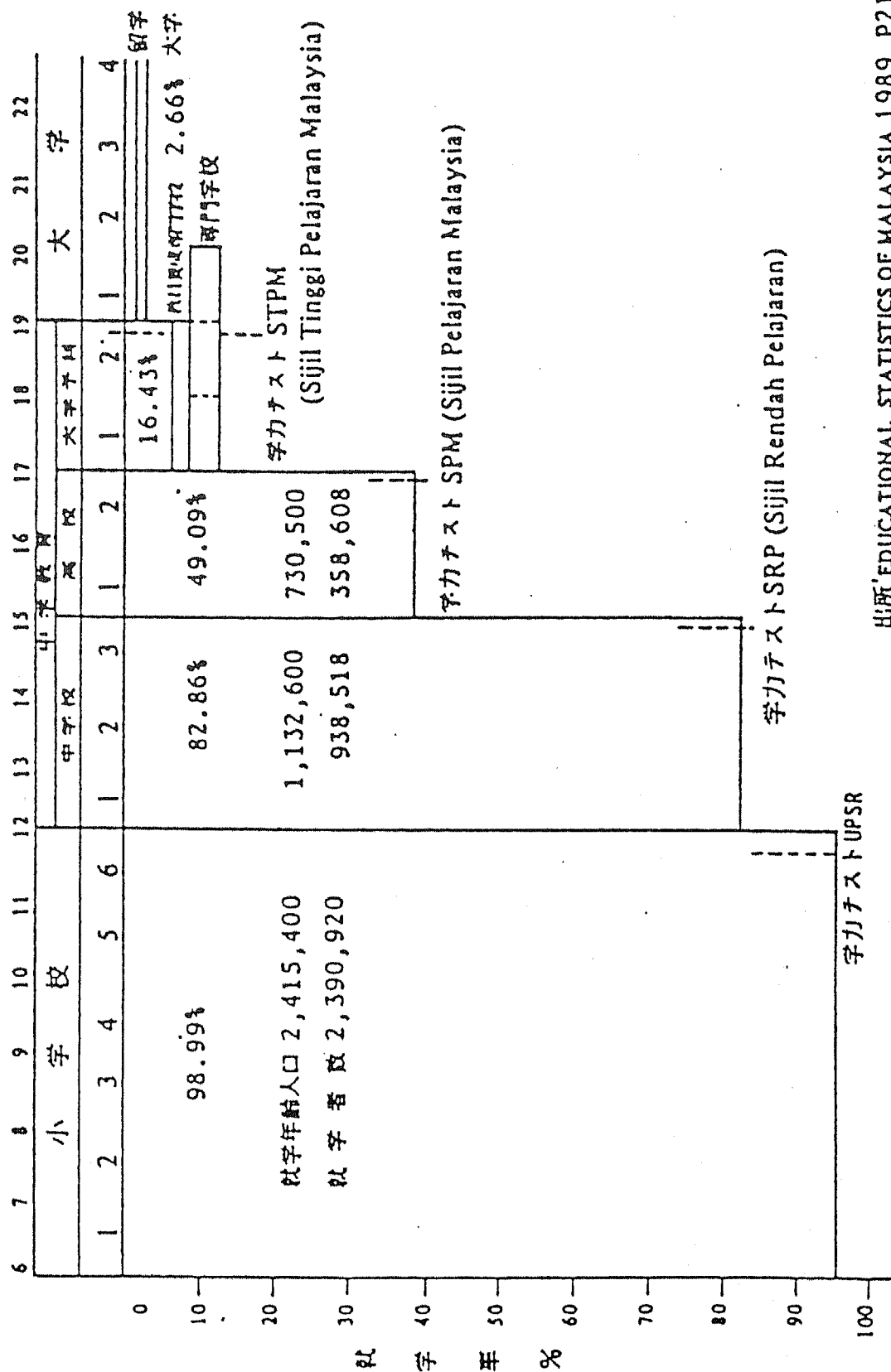
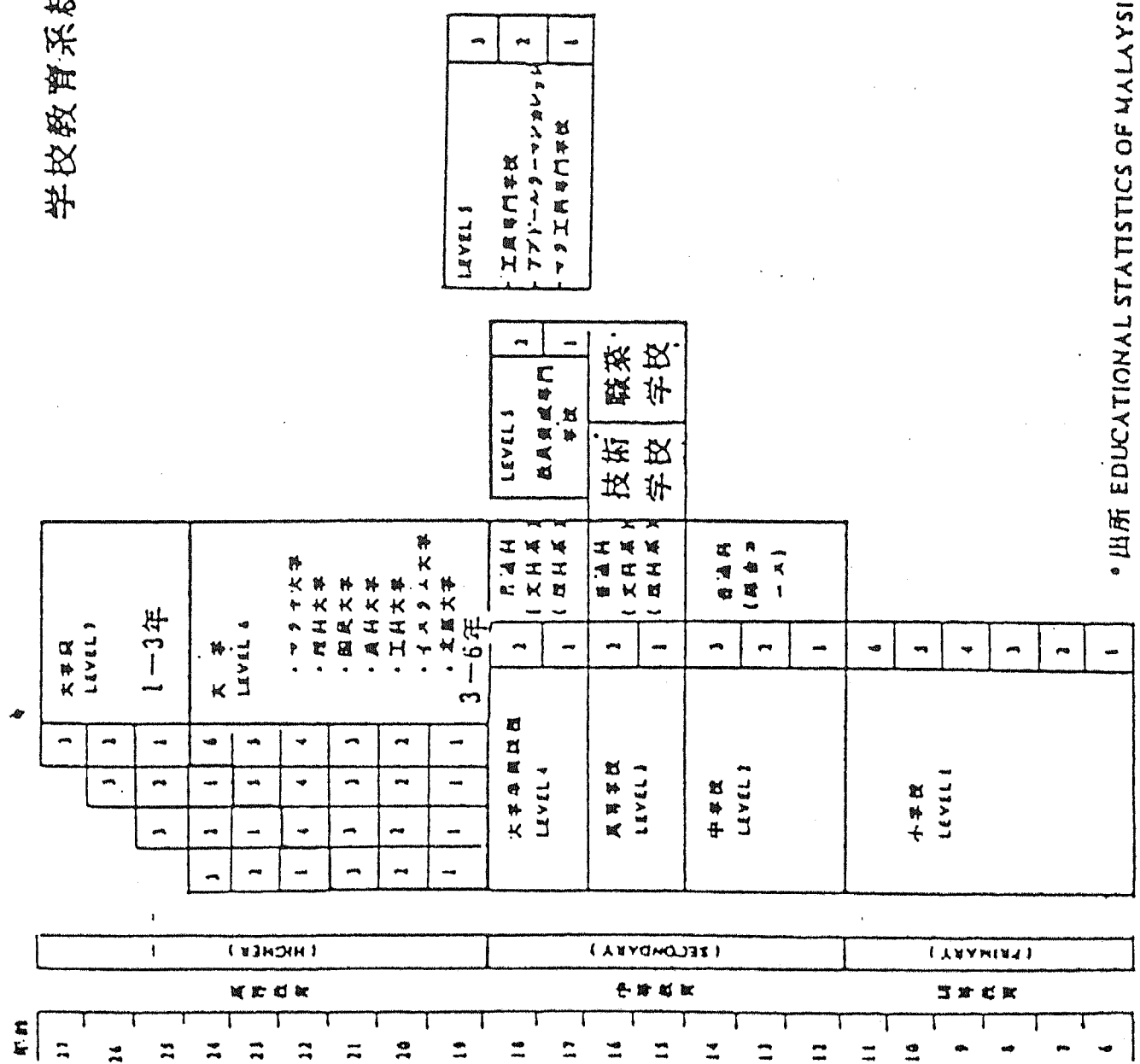


図 III-3-2 就学率と統一テスト



出所: EDUCATIONAL STATISTICS OF MALAYSIA 1989 P21 参考

学校教育系統図



・出所 EDUCATIONAL STATISTICS OF MALAYSIA 1989 によ

08786

08786

